



## THE対談

小原域嗣×川合勇進

### スタッツの先生を目指して

今回は、くーちゃんこと小原域嗣先生と、ゆうしん先生こと川合勇進先生の対談です。共に、スタッツで10年を超えるキャリアを積み、来年には二人でやり始めた野童という教室が10周年を迎える節目の今、スタッツで活躍してきたこの二人に、スタッツの先生とは？という、シンプルだけど、深みのあるトークテーマで対談してもらいました。

**小原** 今回の対談、スタッツの先生とは？的な、大きなテーマにしました！

**川合** まじっすか！？オモテー(笑)でも、そのテーマならなんでも喋れます！

**小原** なんでこのテーマにしたかという、自分達が少しずつスタッツの現場から離れようとしている今、スタッツというブランドや、スタッツの先生という職人を、これからも絶やすことなく、むしろパワーアップさせていく為のヒントにならないかなと思って。この前、まさや(村瀬雅弥先生)とも話して、「くーちゃんって、どんな感じでスタッツやってるんすか？」って聞かれて(笑)まさにそれを、ゆうしんにもぶつけてみようと思って！

**川合** まさやもちゃんと考えているんすね！なるほど！

**小原** まさやには、よく動く先生になるといいよ！って伝えました。自分自身がそうなりたいたいと思ってきたから。自分が2歳児の時に担任の先生をしてくれていた、太田先生っていう人がいて。まさにそんな風になりたかった。面白いし、運動神経も抜群！それが、今でも自分が目指すスタッツの先生かも。あこがれの存在。

**川合** 自分は、会社見学の時に初めて見せてもらったスタッツが、くーちゃんのクラスでした。しかも、八事裏山のすり鉢での崖登り。それがまず衝撃。自分は保育士で、学生時代もちろん保育士の現場しか見てこなかったの、その時見たくーちゃんの、良い意味でのテキトーさ(笑)なんか友達同士みたいな(笑)あと女の先生も豪快で(笑)でもそんな二人に、子ども達が応えようとしている姿が印象的でしたね。先生に言われたからやる、じゃないのがすげーなって。入社して感じたのは、もう看板になるような先生がたくさんいる中で、誰にも勝てんなーって思った(笑)だから、一番おもしろい先生になろう！ってやってきました(笑)まだスキルがないから、自分ができることをやろう！一日ひとり絶対笑わせる！って。専門学校で学んできたことだけが通用する世界じゃなかったですね。もちろん子どもと接する時の目線とか、心理的な気配りや声がけとかは、学んできてよかったなど、今でも思いますね。だから、最初に言ったように、くーちゃんが子ども達に

する話し方とかすごく刺激になりました。今、この子ども達にそんな話し方をするんだ！そっちの方が実は聞いてくれているんだ！的な。どうしても、聞かせるためにどうするっていうのを考えちゃうけど、子ども達が普段くーちゃんが楽しんでる姿とか、くーちゃんといると楽しいことがある！みたいな雰囲気めっちゃあるから、自然と耳に入るのかな？だから、くーちゃんとやり始めた野童で、自分が前で話すのがめっちゃ嫌でしたもん(笑)

やはりスタッツの先生に対して、一つの結論を出すのは難しいそうです。ですが、スタッツには他の幼稚園では出会えない、いきいき、のびのび、でっかい大人がたくさんいます。そんな大人と子ども達のキョリ。これが大きなポイントになりそうです。

それぞれの先生が、決められたルールや、常識という縛りにとらわれることなく、自分で考え、楽しみながら活動する中で、先生以上のキョリで接していく。心と体で豪快に接していく。それが、スタッツの先生が目指すべき姿の基本なのかもしれない。これを基本に、スタッツで身につけていく個人的なスキルや、全員が持つべきスキルなども見出していく中で、ベテランの我々が、期待の新人先生たちにスタッツ魂を継承していけたらと感じました。

最後に、少し野童の話をしたと思います。くーちゃんの元で、くーちゃん以上のスタッツ職人に育ったゆうしん先生と、くーちゃんで立ち上げた野童というブランドが、来年で10周年を迎えます。スタッツよりもっとスタッツを！という想いで、合宿専門の教室をやっています。近年はコロナウイルスの影響により、合宿を自粛していますが、合宿がもたらす子ども達への影響は計り知れないものがあります。安心して合宿ができるようになった時には、またこの二人で最高の野童をやっていきたいと思っています。乞うご期待ください！



左:くーちゃん 右:ゆうしん先生

## 村瀬先生が 子どもの「今」を見つめる

優しい心を育む



今年度、スタッツ赤帽子担任(2歳児クラス)兼桃帽子担任(1歳児クラス)をしております、村瀬雅弥です。(まさや先生・まー先生と呼ばれています)2学期が始まり1か月が経ちました。夏の川遊びを終えた子どもたちは、足腰がしっかりし、原っぱを走る姿はとてたくましく感じます。

さて、今回私が紹介したいのは、赤帽子クラスであった心温まるエピソードです。先日、スタッツの活動で、牧野が池緑地公園を探検していると、お友達が転んで泣いてしまいました。すると、子どもたちは心配そうに「だいじょうぶ?」と駆け寄ったり、優しく「いたいの、いたいの、とんでいけ〜」と声をかける姿が見られました。他にも天白公園での活動中、長い階段をゆっくり登っているお友達に「頑張れって応援してあげよう!」と私が言うと、それにつられて「がんばれ〜!」と大きな声で応援をし、お友達を迎えに行く姿もありました!

1学期ではなかなか行動にできなかったことが、2学期が始まってからお友達を心配したり、慰めることができるようになったりと、赤帽子クラスみんなの成長を強く感じました。

赤帽子クラスでは「優しい心を育む」という目標を掲げており、特に意識をしていることは『子どもたちに優しく、思いやりのある関わりをすること』です。人から優しくしてもらおうと、相手にも優しくできると私は考えています。そのため、私たち担任の優しさや、思いやりのある関わりを通して、その経験をお友達にできるよう優しい心を育てています。もちろん!お友達に優しくできた時は思いつき褒めます!

これからも赤帽子クラスでは、『優しく、思いやりのある関わり』をたくさんし、たくさん褒めて、もっともっと優しい心が大きくなるよう、全力でサポートします!残り半年間、子どもたちがどんな風に成長をするか楽しみで仕方ありません。

## 外谷 が遊びで育む ココロとカラダ



スタッツでの活動は、遊びそのもの。身体を思いっきり動かして遊ぶ中で、様々な心を身につけていきます。「おもしろそう」と興味をもち、様々な挑戦をすることで、「やってみよう」「こんなふうにしてみたいな」という探究心や好奇心などが芽生えます。夏の川遊びや秋の山遊び、崖登りなど、様々な挑戦を2歳児クラスから行います。一人の力ではうまくいかない難しいことにも挑戦し、仲間たち、先生たちに支えられながらクリアすることで「頑張って自分でできた!」と喜びを感じます。満足感・達成感は、自信を生み、それが新たなことに向かっていく意欲を生みます。

また、生き物の飼育や植物を育てることで、愛情、責任感、命についても学んでいきます。

さらに、縦割り授業といって、他学年の子どもと一緒に活動することがあります。年上の子は、年下の子を思いやり、できないことをフォローするなど、積極的に面倒を見てあげる光景がよく見られます。年下の子もたちは、年上の子に尊敬や憧れを持ちます。その経験によって、自分が同じ立場になった時に同じことをしてあげられるのは、縦割り授業の魅力です。

子どもたちがどのように遊びと出会うかということも大切です。出会い方によっては、その活動への興味は変わってきます。子ども一人ひとり、本当にやりたいと思うタイミングは同じではありません。仲間と一緒にする遊びでは、友だちと取り組むから楽しい時もありますが、自分の思いや意見が通らず、挫折感や葛藤を味わうこともあります。自分のやりたいことと仲間の気持ち。それぞれを尊重しながら、自分の思いを伝えることで、協調性が育ちます。

子どもたちとの遊びを通して、このようなたくさんの方の心を大きく育てられるよう、これからも応援していきます。

## お知らせ

今回は、いっちーてれびより会員の皆様へお知らせです!

このたび、スタッツの情報をメインに様々な動画を発信していた **いっちーてれび** がこれまでの『スタッツ限定』から『名古屋教育文化センター全体』へとステップアップしました!

スタッツのことはもちろん、学習塾の名教や土曜日に行っているDo囉塾今年度よりはじまったスタッツ小学校などたくさんの方の名古屋教育文化センターの情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

是非チャンネル登録をして、お待ちください!

☆下記のURLから視聴可能です☆

